

館所蔵「掛時計」資料について

今井 真司*

1 はじめに

現在、下川町ふるさと交流館には、町民より寄贈されたゼンマイ式の「掛時計」が19点保存されています。この資料は平成13年2月17日～25日の期間、当館の第16回企画展「時計」において展示したもので、本報告ではその各資料について展示に伴い調査した資料データを紹介します。

2 各資料について

①武田時計 (収蔵No.254)



寸法:長140cm、幅50cm、
字盤約29cm(約12インチ)。年代:昭和25年頃。
説明:特徴として文字盤横の側面に中の機械が確認できるガラス窓があります。この時計は昭和25年(1951)の開基50周年を記念して、下川町中央婦人会が寄贈し、役場旧議事堂に設置されたものです。武田時計は昭和22年(1947)に設立された

会社で、現在は時計の製造はしていません。

②精工舎 (収蔵No.255)



寸法:直径43cm、厚12cm、
文字盤約35cm(約14インチ)。年代:大正12年～
昭和33年頃。説明:

精工舎のカタログによると製品名は「No.130 13吋(インチ) トーマス」と呼ばれるもので、「13

吋」とは文字盤の直径のことです。製造元の精工舎は服部金太郎が明治14年(1881)に創業した服部時計店の時計製造工場として明治25年(1892)、東京で設立された会社で、これまでに独立・分割を繰り返して現在では日本で一番大きな時計会社としてセイコーグループを形成しています。グループの主な会社には、セイコー(株)、セイコーロック(株)、セイコーインスツルメンツ(株)、セイコーエプソン(株)などがあります。

③英工舎 (収蔵No.906)



寸法:長57.5cm、幅5.5cm、
厚12cm、文字盤約16cm(約6インチ)。年代:
昭和10～20年代。説明:特徴として文字盤横
の側面に中の機械が確認できるガラス窓がありま
す。裏側には購入先と思

われる10年7月29日付、網走町(現在網走市)一心堂のラベルが付いています。製造元の英工舎は鶴巻栄松によって、大正14年(1925)に東京で設立され、戦後時計製造を中止して現在では社名がキャノン電子(株)となりカメラ・ビデオ製品を生産しています。

④愛知時計 (収蔵No.1010)



寸法:長51cm、幅25.7cm、
厚11cm、文字盤約17cm
(約6インチ)。年代:昭和
28～31年。説明:裏側

に「No.2341」のラベルがあり製品番号と考えられ



まず、愛知時計は明治 31 年 (1898) に設立された会社で名古屋地方の大きな時計製造会社でした。現在は時計製造を中止し、社名も愛知時計電機(株)となり、主に水道メーター製造をしています。

⑤精工舎 (収蔵No.1056)



寸法: 直径 45cm、厚 13.2 cm、文字盤約 41cm (約 16 インチ)。年代: 大正 12 ~昭和 33 年頃。説明: 精工舎のカタログによると製品名は「No.85 16 吋 (インチ) 丸」と呼ばれるものです。

⑥TŌ YŌ (収蔵No.1074)



寸法: 長 118.1 cm、幅 45cm、厚 18.5 cm 文字盤約 29cm (約 12 インチ) 年代: 昭和 30 年代。説明: 町内の桜木時計店にあった時計。この商標については旭川の明治屋が大正 13 年に商標登録をしています。

⑦GLOBE & CO. (収蔵No.1116)



寸法: 長 58 cm、幅 31.5 cm、厚 9 cm、文字盤約 21cm (約 8 インチ)。年代: 大正時代~昭和の初め。説明: 商標登録によると大正 13 年名古屋の小菅甚右衛門が出願しています。

⑧MIZUHO SYOJI K.K (収蔵No.5616)



寸法: 長 43.5 cm、幅 23cm、厚 10.5 cm、文字盤約 17cm (約 7 インチ)。年代: 昭和 34 年頃。説明: 年代は振り室窓の「贈渡伯記念 昭和 34 年 11 月 川崎義光」より判断した。製造元の「MIZUHO SYOJI K.K」は愛知時計電機株式会社の総販売元「瑞穂商事」のことと考えられ、裏面に「メニュエットNo.M-134」のシールが貼ってあり、これが商品名と型番と考えられます。

⑨MIZUHO SYOJI K.K (収蔵No.5617)



寸法: 長 73 cm、幅 31cm、厚 13.5 cm、文字盤約 19cm (約 8 インチ)。年代: 不明。説明: 製造元の「MIZUHO SYOJI K.K」はNo.⑧と同じと考えられ、裏面に「メニュエットNo.M-501」のシールが貼ってあり、これが商品名と型番と考えられます。

⑩精工舎 (収蔵No.5725)



寸法:長 72 cm、幅 38cm、厚 12 cm、文字盤約 26cm (約 10 インチ)。年代:大正~昭和初期。説明:セイコー資料館によると、精工舎は明治 38 年頃よりインド等に時計の輸出をしていたので、その代理店の名称です。

⑬精工舎 (収蔵No.6127)



寸法:長 51 cm、幅 25cm、厚 11 cm、文字盤約 18cm (約 7 インチ)。年代:昭和 24・25 年頃?。説明:No.6127~6129 までは同じ製品。

⑪館本時計 (収蔵No.5726)



寸法:長 59 cm、幅 29cm、厚 11 cm、文字盤約 19cm (約 8 インチ)。年代:不明。説明:製造元不明。

⑭精工舎 (収蔵No.6128)



寸法:長 51 cm、幅 25cm、厚 11 cm、文字盤約 18cm (約 7 インチ)。年代:昭和 24・25 年頃?。説明:No.6127~6129 までは同じ製品。

⑫TOYO (収蔵No.5727)



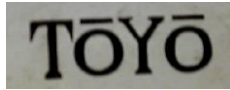
寸法:長 72 cm、幅 38cm、厚 12 cm、文字盤約 19cm (約 8 インチ)。年代:不明。説明:商標が他の TOYO とは違い菱形の中に「A」と入る。製造元は不明。

⑮精工舎 (収蔵No.6129)



寸法:長 51 cm 幅 25cm、厚 11 cm、文字盤約 18cm (約 7 インチ)。年代:昭和 24・25 年頃?。説明:No.6127~6129 までは同じ製品。

⑯ TŌ YŌ (収蔵No.6130)



寸法:長 47 cm、幅 23.5 cm、厚 11 cm、文字盤約 14cm (約 6 インチ)。年代:昭和 29 年頃。説明:年代は時計に貼ってある備品整理票に「昭和 29 年 11 月 10 日」あるため。

⑰精工舎 (収蔵No.7555)



寸法:長 50 cm、幅 20cm、厚 12 cm、文字盤約 14cm (約 6 インチ)。年代:昭和 4 ~13 年頃。説明:精工舎のカタログによると製品名は「No.106 スリゲル十六号」と呼ばれるものです。スリゲルとは一般的に箱型の掛時計の名称です。

⑱ KASHIHARA (収蔵No.6131)



寸法:長 45.5 cm、幅 23cm、厚 10 cm、文字盤約 17cm (約 7 インチ)。年代:不明。説明:製造元不明。

3 日本の掛時計について

日本の近代時計産業は、欧米からの輸入時計に触発され、明治 8 年 (1875) に金子元助が始めた「金元社」が時計製造の始まりです。この金元社は設立後、時計製造の研究を始め、明治 13 年 (1880) 頃に時計を完成し宮内庁に掛時計を献上しました。しかし手作業での製造であり、コストが高くなり明治 16 年 (1883) 頃に会社は解散しました。その後明治~昭和にかけて関東、名古屋、近畿地方を中心に数多くの時計製造会社が設立されています。しかし現在まで創業している会社は少なく、多くが廃業、時計の製造を中止しています。その理由の一つには、初期の時計製造が少人数で手工業的な生産体制の会社が多く、大量生産できず、コストを下げるができなかったことが上げられます。そのため機械化し量産体制ができた会社とその後も存続できたようです。

時計生産に関する地域的特徴としては、関東地方は一企業による部品から組立てまでの一貫生産に対して、名古屋地方は多くの小規模な部品工場や組立て工場による分業体制であるなど地域的特色がありました。

次に各時代の製造会社について「時計百科事典」により確認すると、

<明治時代>

関東甲信越:新居常七(明治 10 頃設立、以下カッ

⑲精工舎 (収蔵No.6650)



寸法:長 55 cm、幅 65cm、厚 16 cm、文字盤約 26cm (約 10 インチ)。年代:明治末~昭和初期。説明:時計のマークは国内外の時計メーカーで見られ、文字盤・機械を他社から購入し、自社の外装に組み込んだものと考えられます。

コ内設立年)、吉沼又右衛門(明治22年頃)、有澤時計(富山、明治22年頃)、東京時計(明治22年頃)精工舎(明治25年)。**名古屋**:中条勇次郎(明治18年頃)、時盛舎(のち林時計、明治20年頃)、水野時計(明治25年頃)、名古屋時計(明治26年頃)、尾張時計(明治27年頃)、明治時計(明治28年頃)、小栗時計(明治30年頃)、森時計(明治34年頃)ハートエッチ時計(明治38年頃)。**大阪・京都**:大阪時計(明治22年頃)、播陽時計(兵庫、明治22年頃)京都時計(明治24年頃)、渋谷時計(明治25年頃)、江久保時計(明治26年頃)、日本時計(明治28年頃)、奈良時計(奈良、明治27年頃)。**九州地方**:長崎時計(明治23年頃)などの数多くの会社が設立されています。

その後大正時代については、同書によると、大正10年(1921)の主要時計工場として、関東に5社、名古屋に27社が記され、また昭和11年(1936)の主要時計工場として、関東に12社、名古屋22社が記されています。この中で精工舎や愛知時計など大手工場は常に会社名が挙げられているのですが、多くの会社は、各年代にのみ記されているだけで、会社の設立、解散など沿革が不明です。平成12年(2000)現在で日本時計協会に登録されている会社は13社で、その会社名は、**関東**:オリエント時計、カシオ計算機、シチズン商事、シチズン時計、セイコー、セイコーインスツルメンツ、セイコーエプソン、セイコークロック、セイコープレジジョン、リズム時計、**長野県**:タカネ、**福島**:原町精器、**名古屋**:リコーエレメックスで、これらの変遷だけでも時計業界の盛衰が激しかったことがうかがえます。

4 旭川明治屋と時計

資料の⑥と⑩の「TŌ YŌ」の商標がついた時計について、調査当初、これらの時計は埼玉県にある東洋時計製造の時計と考えていましたが、実際は旭川明治屋がこの商標権を所持しており、同社が時計会社(現在のところ不明)にこの商標をつけた時計を製造させ、自社で小売店に卸していたことが調査によって判明しました。

両社の沿革について、関東の東洋時計は、明治34年(1901)創業の吉田時計店の製造工場として大正9年(1920)に設立されました。昭和21年(1946)には大規模な労働争議がおり、24年(1949)には工場の全面閉鎖がされています。その後、「新東洋時計」と「オリエント時計」に別れ、新東洋時計はその後社名を「株式会社トーヨー」に改め、また昭和51年(1976)には時計の製造を中止しています。

旭川明治屋は、明治25年(1892)、まだ開拓が始まったばかり旭川で、新潟県から移住した佐藤音次氏が現在の1条通5丁目に日用品荒物雑貨を扱う佐藤商店を開いたのが始まりです。その後二代目の門治氏に引き継がれ、自転車卸業、時計卸業、農場経営、観光事業へと商売の範囲を広げています。特に時計卸業については、明治44年頃から始まり、一時は道内での時計卸のおよそ30%を占めたようです。また昭和9年には門治氏は日本時計師協会会長に就任するなど、時計関連協会の理事を歴任していました。

前述の商標は時計卸部門が伸びて行く、大正13年、佐藤音次氏が名古屋市中区南伊勢町2番地武田實英氏を代理人として「TŌ YŌ」の商標登録をしたものです。また佐藤音次氏は、「明治大正昭和業界三世代史」によると、これ以外にもトーヨーに関する商標として日本文字などあらゆる種類の商標を登録しているそうです。同書によると昭和12年(1932)に吉田時計店側から商標譲渡の話が明治屋にありましたが、二代目門治氏は断ったことや、戦後オリエント時計からの譲渡申入れも断ったことが記されています。明治屋による時計製造については、現在資料がなく関係者への聞き取りではありますが、戦前・戦後、各地の時計製造会社に依頼し、都度百台程度製作し、道内の小売店に卸していたようです。

5 まとめ

館所蔵の時計、特に掛時計の調査を行った過程で、多くの情報を得ることが出来ました。特に製品情報については年代や名称、当時の価格など不

明点を多く残してしまいました。今後も折りを見て、資料収集を続けたいと考えています。

最後に資料調査、企画展開催にあたり、次の機関・個人より資料や情報の提供、協力・助言をいただきましたので、お礼申し上げます。(敬称略)
セイコー時計資料館、株式会社トーヨー、キャノン電子株式会社、愛知時計電気株式会社、シチズン時計株式会社、武田時計興業株式会社、静岡県立中央図書館、神奈川県立川崎図書館、北海道立図書館、北海道開拓記念館、江別市情報図書館、市立名寄図書館、下向時計眼鏡店、旭川明治屋、桜木光雄、池田秀世

<参考図書>

吉田浅一編「名古屋時計業界沿革史」 1953
「明治大正昭和 業界三世代史」株式会社時計美術宝飾新聞社 1966
精密工業新聞社編「時計百科事典」精密工業新聞社 1983
小田幸子「時計 カラーブックス 251」保育社 1983
内田星美「時計工業の発達」服部セイコー 1985
示村貞夫著「旭川明治屋の百年 佐藤音次・門治・正治三代の譜」(株)明治屋 1986
塚田泰三郎・本田親蔵「新装改訂版 古時計」東峰書房 1989 (初版1970)
織田一朗「時計の針はなぜ右回りなのか」草思社 1994
武笠幸雄「明治・大正 古掛時計図鑑」光芸出版 1999
シチズン時計株式会社広報室編「時間のデーターでみる 20 世紀」実業之日本出版部 2000
(有)桜風舎編「骨董「緑青」Vol. 9 (通巻 39号)」マリア書房 2000
株式会社トーヨー編「トーヨー50年史」株式会社トーヨー 2000
戸田如彦「アンティーク掛時計」トンボ出版 2001

<参考ホームページ>

社団法人日本時計協会

<http://www.jcwa.or.jp/>

セイコー (株)

<http://www.seiko-corp.co.jp/>

オリエント時計 (株)

<http://www.inv.co.jp/~orient/>

カシオ計算機 (株)

<http://www.casio.co.jp/>

シチズン時計 (株)

<http://www.citizen.co.jp/>

リコーエレメックス (株)

<http://www.ricoh.co.jp/rex/>

リズム時計工業 (株)

<http://www.rhythm.co.jp/>

愛知時計電機株式会社

<http://www.aichitokei.co.jp/>

長谷川時計舗

<http://www.hasegawatokeiho.com/>

明治時計株式会社

<http://www.meijitokei.com/>

※下川町ふるさと交流館学芸員